

平成8年(1996年)10月26日(土曜日)

仙台市で開かれている高校生のディベートにインターネットで参加する盛岡百百合学園高の生徒

盛岡百百合高

盛岡市山岸の盛岡百百合学園高(水原洋子校長、生徒九百五十四人)で二十四日、三年生三人が仙台市で開かれた高校生のディベート(討論)にインターネットとテレビ電話で参加し、仙台、秋田の高校生と意見交換し



ディベートは仙台市科学館を主会場に、宮城県東北学院高、仙台高、西多賀養護高等部の生徒が「校則をなくすべきだ」をテーマに肯定派、否定派に分かれて議論を展開。会場とはインターネットとテレビ電話で結ばれ盛岡百百合学園高は肯定派、秋田県の秋田和洋高が否定派の立場で参加。盛岡百百合学園高から参加した三年生の永

インターネット、TV電話討論

校則で意見交換

「この試みは仙台市科学館を会場に二十四、二十五の両日開かれた第二十二回全日本教育工学研究協議会全国大会の授業研究の中で行われた。参加した三人は「短時間で自分の意見を言葉にするのは難しい。コンピューターを使いこなすにはまず自分を高めることが大切で善が進まないから生徒が校則を破る」となる」などの意見を次々に送信。仙台会場でその意見が発表される状況を見守った。

滝沢中は、県内各地から教師百二十人を招いた学校公開研究会で「さんさ笛」

ひとみ輝く

生き生き授業

田千秋さん、大谷友絵さん、佐藤香奈さんは「校則の改善が進まないから生徒が校則を破る」となる」などの意見を次々に送信。仙台会場でその意見が発表される状況を見守った。

THE UNIVERSITY

10